

續群書類從
教育部

改正

翁問答

中



門 仁 13
1618
2

藤回善卷之三



天^ま之^の曰^い世^せ俗^{ぞく}の^のり^りさ^さに^に孝^こ回^へ抽^ひき^き出^です^すは^はれ^れ
或^{ある}ハ^ハあ^あち^ちな^など^どけ^けと^とい^いて^て士^しの^の志^しと^とい^いあ^ある^る
そ^その^の向^むす^すさ^さた^たう^う人^{ひと}ハ^ハあ^あら^らう^うと^と我^{われ}の^の役^{やく}め^め
ら^らや^やい^いな^など^どさ^さく^く士^しれ^れう^うら^らに^に孝^こ回^へす^す人^{ひと}
あ^あれ^れを^をあ^あて^てて^てあ^あり^りや^やい^いち^ちや^やの^のあ^あや^やま^まり^りを^を
以^もて^てま^まう^うい^いふ^ふら^らあ^あら^らう^うま^まに^にい^いは^はさ^さる^る
作^{さく}家^か曰^いそ^それ^れハ^ハに^にせ^せま^まれ^れく^く孝^こ回^へさ^さう^うり^り海^{かい}め^めを^を
洗^{せん}俗^{ぞく}を^をく^く流^{りゅう}を^をれ^れん^ん汚^ご濁^{たく}よ^よそ^そま^まり^りて^て明^め浄^{じやう}
く^くい^いふ^ふら^らあ^あら^らう^うは^はい^いま^まそ^そい^いは^はれ^れ丈^{だけ}の^のふ

武篇よりかなりいさよ及びそれも師承しき
の仕やうと云ふべく味もさうなり中庸
曰人一能之己百之十能之己千之果能比及矣雖愚
必明雖柔必強この聖賢の意にあつて天地の祥
乃に志の成を成にする工夫なをけきうづとめれ
こゝろもあつたさうと云ふべきは付属意小
して是れいふさうなれども本心の良知のなる
ことば付あつてにかなりぬが仁を
の勇のよりて剛強ふなりて武篇よさとの
義なり倫語曰仁者必勇勇者必不有

仁は聖賢の意は儒者よりて孝で仁者乃
位にまゐる人秋さよりて天理の
何れとすさまじき妖魔或は虎狼をいひて
も所々の人乃指描をいひてさういふ
孝とさあつたさうなりと云ふは
よのひのさうの中或は猛火のうちへさび入るとも
平昔のふもちいさうと云ふは
ろさうなりと云ふは必ずしも
の法あさうなりと云ふは
と勇力なりと云ふは勇力なりと云ふは

かの山ぐみれづるあつりの本のかぐよふなと
けきて死にけりおれづるにれとるて思ひ
ま。さても。帝代不思義かゝるや。いふ本のかぐ
免えの逃れなりと。んて。かの免ととりてゆり
それより。いまのすまへ。いふは本のかぐのり
ふゆさて。本のかぐ。どりたる。免とひらつくと
て。終日。守。飛。つ。なり。け。山。神。の。ま。より。い。に。似。る
る。世。に。多。よ。り。て。富。を。一。て。元。夫。の。建。い
ど。い。ひ。い。い。志。め。より。就。中。これ。は。似。る。大。あ
ま。よ。い。は。合。よ。富。貴。に。なり。ぬ。れ。ぬ。あ。れ。恵。

ま。あ。て。あ。の。ご。い。ち。も。い。ま。い。は。合。あ。
く。貧。乏。よ。なり。て。い。あ。う。い。と。い。お。し。い。い。て。
親。と。う。こ。ち。人。と。う。め。天。と。う。む。と。人。と。の
は。い。かり。は。合。よ。富。貴。に。なり。も。運。命。は。
付。いて。あ。が。ち。う。の。な。い。と。あ。よ。あ。は。合。
わ。く。貧。乏。よ。なり。も。運。命。の。せ。付。いて。親。の
こ。あ。い。あ。う。よ。人。の。あ。い。よ。い。も。あ。う。す。り。と。い。
天。の。の。や。ま。り。た。ま。あ。ら。り。も。あ。う。す。る。義。何
れ。も。義。か。た。さ。い。も。あ。ら。り。人。け。た。り。も。い。う。る
え。い。け。し。武。尊。す。る。も。の。あ。て。は。なく。人。の。あ。い。

三

上

とのこころは懞の心と雖も孝なり。中にも孝はよ
 もんけず。只ひよくよくに記誦詞章は孝ひ
 ともなとて。ひるまに多くするやと。心とて。げ
 ぎやうくなり。中にも聖賢より下の生付に。る
 懞の邪んさるさへハあり。天下の惡逆無道とあり。
 戒はさうひ。戒は失相に。なり。人皆この懞んとす
 て。ざらふ。ゆゑなり。けり。懞の邪んが。魔鬼境
 畜生乃至。だち。る。る。効なり。と。戒おそる。人。と。さ。ず
 かり。と。と。所。具の。孝。四。よ。い。け。懞。心。と。か。さ。む。た
 より。多。す。つ。つ。エ。夫。ハ。ん。け。れ。ば。お。ち。に。於。路。に

中とてふは^{おも}えに^{おも}くさ^{おも}物とよと^{おも}謙^{おも}釈^{おも}を^{おも}せ

昨龜曰。大昔の文字ある代は。事物あるに
 して。只聖人代にけり。と。ゆへに。て。字同とて。あ
 中の。伏羲。易。と。作。た。し。ひ。文。字。と。し。て。傳。り。て
 たり。故。に。事物。と。し。て。それ。を。傳。へ。し。と。あ。ん
 の。後。と。して。字。同。と。つ。と。あ。中。の。項。中。に。事物。と。し
 たり。て。孔子。の時。は。六。經。皆。そ。あり。り。中。の。孔。子
 の。と。し。て。文。と。し。り。と。然。と。後。の。書。と。し。り。文。と。し。り。の
 文。と。し。り。の。書。と。し。り。の。文。と。し。り。の。書。と。し。り。の。

[illegible]

と十三強と定ふ

一 仲文曰十三強も中なりと多くして凡夫の分まで

皆中して孝中なる。及ぶてねほれうらいて

三孝と云ふて大綱の如くありやと云ふ事ハ此

をなくいふ

一 所云曰が来易強一部と行へばろめろ十三

強あれども易強と云ふ孝中なるがろめろいふ

いふ易強は愛奥と云ふ如くして凡夫のとり

ちの如く孝にふけて孔子孝強と作給ひ

賢凡夫と云ふ事ハ眼と定ふ事ハ孝強

一 孝と云ふて心強より多く孝と云ふ大綱の如く

心やと云ふ孝強と云ふて能力あるものハ孝力

と云ふに孝と云ふて孝と云ふ事ハ孝力

孝との十三強と云ふ事ハ孝と云ふ事ハ孝

孝との十三強と云ふ事ハ孝と云ふ事ハ孝

孝との十三強と云ふ事ハ孝と云ふ事ハ孝

の如くといふは孝と云ふ事ハ孝と云ふ事ハ孝

孝と云ふ事ハ孝と云ふ事ハ孝と云ふ事ハ孝

孝と云ふ事ハ孝と云ふ事ハ孝と云ふ事ハ孝

孝と云ふ事ハ孝と云ふ事ハ孝と云ふ事ハ孝

仙せん子しと。あふ作さくと。思定しやうてい孝悌かうてい忠信ちゆうしんのたよりを
 ぞ外ぐわいれけに留とどめられおとめづるすむも
 ちとひちやくゆるやうに守まもり悔急かいきゅうなまればうら
 淡たんざとりと用拙ようせつなりぞれがうそさとこゝろさへ。
 生付ひまつれぬ暗くらにひとりやは
 仲え日。孝悌かうてい夫そ者ものなり代しろとごころにて武ぶ海かい
 のよりかしく人ひとば士したるものぞ孝悌かうてい一いつ歩ぽとぞ。
 いふ子ことふいふくとねい

一 昨翁曰。それハ大ナク。あやまりにてハ武名無。
孝うやうやの。一いふにてハある。孝うやうやりらう良りやうのためためトカ

せざるも、さうして、あまげと武家と、半の孝の
 忠良に、さしひさる。く、きれ、夢れ、け、まじ
 り人、さ、盗、と、や、もの、め、く、い、は、現、ハ、ま、う、や
 も、さ、さ、の、あ、れ、ど、も、わ、さ、ま、人、ち、る、く、ま、う、れ、た、う、ま、や
 び、り、人、と、も、ま、あ、者、た、り、と、あ、じ、う、れ、信、お、さ、ぬ
 一、く、あ、げ、う、あ、う、に、悔、い、い、う、れ、信、に、あ、ま、り
 け、も、そ、孝、り、た、良、れ、外、に、武、家、れ、と、一、あ、る
 べ、さ、い、の、さ、う、ひ、な、り、孝、院、曰、ま、な、始、於、事、親
 中、干、事、不、終、於、立、力、又、曰、君、子、之、交、上、也、進、思
 盡、忠、退、思、補、過、將、順、其、美、匡、救、其、惡、故、上、下、能

あそぎ 一はくしんくあしめ ちんちんく
相親や詩云心乎婁矣不謂矣中心藏之何日
忘之しんちんくれいしんくちんちんく教たふんが則すなはち武篇のと
しにてはちんちん外に武篇とししむるハ形のか
おひしんくとしむるにひとまるちり曾子曰
我陳無勇非孝やは賢範のこハ是ハ報我
理とまるが孝はれ感通なり素の是ハ親の是
よひとまる廣大なり是は孝や孝修ハ必孝みて
口よりおのちれむ孝はのめなりものハ必我
陳にとひて武篇としむる武切とまるものなり
と一つひく孝なりちんちんくおつても我陳に

かわて武篇のちけとまるは素の孝なり
わびといまめちんちんく我なり程子武
学制に孝を添へられたりげとハ孝を
ひく我理とまるとあつたものハ生れを
あけにても主君の用にまがしめてかたの
とさつひものなりちんちんくあつたよりて孝
理とだつて孝に報我理とまがしんとあつた
あつた血れの勇と化して仁義の勇とあつた
ちんちんくためなりよりて体徳と孝なり端
めをゆるめべし

一 仲克問曰。衛君之問陳於孔子。孔子對曰。桓宣
之事則常聞之矣。軍旅之實未之學也。明
日遂行。而後將不克。孔子曰。軍法之有也。
一 何と云々。衛君之問陳於孔子。孔子對曰。桓宣
之事則常聞之矣。軍旅之實未之學也。明
日遂行。而後將不克。孔子曰。軍法之有也。

一 何と云々。衛君之問陳於孔子。孔子對曰。桓宣
之事則常聞之矣。軍旅之實未之學也。明
日遂行。而後將不克。孔子曰。軍法之有也。
一 何と云々。衛君之問陳於孔子。孔子對曰。桓宣
之事則常聞之矣。軍旅之實未之學也。明
日遂行。而後將不克。孔子曰。軍法之有也。

一 何と云々。衛君之問陳於孔子。孔子對曰。桓宣
之事則常聞之矣。軍旅之實未之學也。明
日遂行。而後將不克。孔子曰。軍法之有也。
一 何と云々。衛君之問陳於孔子。孔子對曰。桓宣
之事則常聞之矣。軍旅之實未之學也。明
日遂行。而後將不克。孔子曰。軍法之有也。

三六
中より極きところなる。所詮はよくある。然る
熱くもたへある。十八は九の二軍のすう。さきも
るにふくまにやうぬきもたへる。さきも
もてふと往後とよる。評判者。かゝるも。さきも
と。一対のふくま軍法とある。いふも。なんの武法。威通
して。暗に。あつる。ふくま。と。さうに。軍法と。さきも
武の神妙と。いふ。鬼に。かゝる。いふ。と。さうに。後
いふ。大唐。と。も。目。に。て。も。名。に。ひ。あ。や。の。人
に。軍法。を。さる。あ。や。陣。す。の。切。を。さる。と。ふ
大軍。と。目。に。て。い。ふ。や。武。果。と。い。ふ。と。大。敵

強敵に。あ。ひ。て。百。戦。百。勝。の。功。と。い。ふ。と。半。く。な。ぬ
る。に。て。大。軍。の。軍。法。と。い。ふ。と。い。ふ。と。は。さ。う。て。敵
に。う。ち。あ。や。と。り。威。と。衆。人。に。い。ふ。に。あ。り。是。は。運。令
の。力。と。敵。の。さ。さ。る。功。名。か。り。か。の。と。い。ふ。と。人。と
見。て。何。の。い。ふ。も。ち。く。軍。法。と。い。ふ。と。も。さ。う。と。い。ふ
ち。い。ふ。と。は。株。と。い。ふ。と。男。と。い。ふ。と。さ。う。の。ち。う。下。
運。令。の。力。つ。う。あ。れ。い。わ。き。も。た。さ。暗。に。も。威
勢。と。衆。人。に。い。ふ。と。矢。と。い。ふ。と。さ。う。作。と。い。ふ。と。さ。う。の。ち。
て。い。ふ。と。れ。い。も。村。の。力。と。い。ふ。と。三。町。も。四。町。も。花。と。い。ふ。と。
花。と。い。ふ。と。殺。と。い。ふ。と。の。と。い。ふ。と。さ。う。と。い。ふ。と。火。と。さ。う。の。

力に指すも今も。うらめさて人と殺ぐとし。
まゝ敵のさへらるる名は基お棋の勝負にて。
考ふるべし。トはいかに。わらでさへえんる。
かれども上はにあひくはんぐく。あつらふと。
一。大形合戦の勝負の。ごとく。大唐の名大ね。
まゝさるる。いとはたさ。やと。教ぬえども。わまの。
く人の。あて。たて。さす。り。大云。を。張良。韓信。項羽。
法葛。孔明。など。たり。は。み。人の。名。皆。わら。さ。内。合。戦。
一。し。勝。た。す。さ。う。い。と。い。と。さ。ま。の。上。う。と。さ。い。
め。され。ら。り。ま。い。て。味。方。の。功。が。く。を。も。附。に。ま。

ては。味。方。く。め。り。勝。利。と。い。て。は。世。に。い。ひ。や。と。ま。
系。は。た。り。さ。名。大。ね。名。や。大。唐。の。名。お。わ。の。と。い。
目。中。も。そ。も。源。の。義。経。と。初。め。の。時。戦。ふ。に。て。ま。は。
と。あ。て。い。ひ。の。さ。ま。い。て。味。方。の。功。が。く。と。い。も。
本。も。さ。る。又。平。家。の。一。族。と。な。る。の。合。戦。は。勝。利。と。
い。ひ。中。に。て。の。比。較。た。り。さ。名。大。ね。の。さ。の。と。い。く。な。る。
倭。漢。う。ら。め。さ。た。め。と。い。く。考。て。味。方。の。功。が。く。と。い。
る。一。又。つ。の。な。と。わ。り。大。ね。の。さ。と。い。り。敵。は。病。や。
士卒。は。某。味。方。り。現。象。用。間。の。武。器。は。中。診。乃。醫。
術。たり。奇。正。の。倭。敵。は。因。り。時。化。する。る。攻。補。の。某。

三十一
るの事とて武成に在るにあらざる軍はさう
大なる軍とて大なるものごとく百戦百勝の功を
えりいへる人もあらゆべくいよく仲祖とてまひ
とゆらるるもさへくは

一
仲之曰運令なづくくはこれの敵もがたや
作新曰合戦の勝負に法のうらむれくちかれち
運のうらとてさうの免あわはと云ふ文武合の
ゆ法の事ちりやと云ふ武畧うくくく救と
ゆまになまう敵の情とくくく九天のう
ちいふき九地のうらにあられて百戦百勝の功と

ふるがさのうの力と云へる救の勢力れるちり。
運と云ふはわのげ付く運令のちちりあひて
ひうひのさうあひ運のつらさる勝ものなり大
軍の合戦は法のうらむれわにうらむれ運にう
かりは法牛角られ運のつらさる勝合戦のう
ちは法勢力のつらさる運にうらむれ運にう
のふと云ふ運のつらさるわのうらむれ首を唐ふ
蜀のふと魏のふと天下と争るる蜀のふは後
漢はとて運令はうくくくも法葛孔明と云
は法のゆりたる名大なる魏は必運令はうく

中にての英雄なり。一門を以て八日中にての奸
雄の操業なり。一門の才徳は天地の神祇と
あらず。一門に神祇不剛。廣大用備。之故に
賢人の才徳も大方。一門に才徳がれりぬれども
神祇不剛の位に上らず。英雄は人の才徳
あるよりぬれども。神の才徳と賢人の才徳と
位あるより英雄の才徳とあるより。一門に
三人の才徳の才徳とあるより。一門に三人の
才徳の才徳とあるより。一門に三人の才徳の
才徳とあるより。一門に三人の才徳の才徳と
あるより。一門に三人の才徳の才徳とある
より。一門に三人の才徳の才徳とあるより。

一門に三人の才徳の才徳とあるより。一門に
三人の才徳の才徳とあるより。一門に三人の
才徳の才徳とあるより。一門に三人の才徳の
才徳とあるより。一門に三人の才徳の才徳と
あるより。一門に三人の才徳の才徳とある
より。一門に三人の才徳の才徳とあるより。
一門に三人の才徳の才徳とあるより。一門に
三人の才徳の才徳とあるより。一門に三人の
才徳の才徳とあるより。一門に三人の才徳の
才徳とあるより。一門に三人の才徳の才徳と
あるより。一門に三人の才徳の才徳とある
より。一門に三人の才徳の才徳とあるより。

大なる事なり事にして奸雄はたゞ砒霜巴豆か
どの毒薬のどく毒薬にくせびくさ美症痛
疾は用ゐるその病とやとある一ととやうなりそ
の強乃ととやうなりとてよき味なりとん
にて虚症の病者に与れども其時に死するもの
そのどくは奸雄も敵と破城と擒するなり
たぐま一ととてよき味なりとんて大官
大吏とある人武八国天下とあつてはるに
西とぬとまれ天下とやうなれはなり其
砒霜巴豆の純毒とよく知る幸ふに用ゐるがこ

とく奸雄ともなりとんとよく看みして
金銀たう物とみかたをのすさこのむもの
そせ情うく種を回して奸雄のんととびさ
るにさびくも愛要にては若大とある橙柄
とあづけぬま必橘とあらはるなり天子後侯
此用んま一ととてよき味なり

一 作え曰さやうなりとまらさくはづれがよく
なり

一 昨歳日さやうと悲いさくは城室と用大さあ
あやうりにてづれもあはる只きやういもな
る

くもなぐ中庸不剛の用にあつとより上
天子より下庶人に至るまで誠用れ玉ふ大なり
ていつくさき義理あるはもむことづひに
何ふべきなるにあらざるにあらざるこれ
易あるべき功もさかののちと加ふ家作
るを下の何ふべきもかきとあるを誠家と
あつとあらと世俗さうといふ。君子清白
のり。海は似るにありて凡まはるすくひ
とがひるなり。もくつとふべき。なるも
つとふ。あつとふ。義理ありてもおとす
さか

知の如くあらざる。右切あるす。これ
世あ作法をさ下から際より見らる。地
すむさくつひ費さる。世俗あらさ。と
儉弱朴素の。跡に似る。なり。と
ころ人見。とひて。と。ゆり。と。の
も。さ。う。なるも。皆。法。れ。く。さ。あ。う。が。う。ら
病。と。天下。と。う。な。ひ。あ。と。亡。と。あ。と。や。あ。と。指。中。と
る。情。で。玉。ふ。別。が。と。さ。う。あ。と。い
伴。え。日。あ。り。く。も。な。く。き。う。い。も。り。さ。あ。と。い。ふ。さ。な
玉。ふ。仕。う。人。に

体元曰。古来の此体にいふ仕るるが。よく由るや
 昨為田儒の仁孝に。此体しるるがよくいさか
 くて、此体。正気の義理に。わけるぬめりて。一
 甲斐の位。文豪と。めされ武勇もすれなき
 大物も。このも。其儒れ。めりて。仍て甲陽を
 軍艦の此体。正気の義理に。あつて。すなり
 よ。此体。あつて。

五言

体元曰狂者わうかと申まをはいうるなる人にて此有こゝ有あり也
 肺はい為なり曰いふ狂者わうかハ体たいの廣大くわうたいなり明めいなり正せいをハ悟ごる
 としどもいま精微せいび中庸ちゆうちゆうの密みつに悟ご入あかせざる
 によりて見性けんせい成なり乃すなはちの心術しんじゆつ粗そ糲れい迂う濶くわくにして候しる
 以もつ買かいおた逸いつ程けいなるものなり大唐たいたうよりハ許きよ由ゆう巢そう
 父牧ふまき皮ひ曾そう哲てつ子し棄き戸こ莊ちやう子し天竺てんぢくよりハ釈迦しやくぢや達磨たつま
 ちと勝す過かする狂者わうかなり人ひと乃すなはち生むまれ付つあるるにより
 て乃すなはち學まなして見性けんせい成なりする位くらいに上うへ中ちゆう下げれ之これ順阿じゆんあ
 聖せい中ちゆうの聖人せいじんの下した亞聖あせいの大賢たいけんなりこれハ之これ順阿じゆんあの

うゐにて。才一階上の位なり。狂者ハ中川の下。才二
階の位なり。才三階下の位ハ。猶志なり。學問も
才三階乃位なり。俗學といふものなり。よく
く。休徳を――

一 休徳曰。才一階。祖志にて。巢父。許由。曾。摯。を
もその教乃法世。は。これより。釈迦。達磨の教
も。生玉の。なる。次。大唐。日本。まで。流布。仕ハ
何。なる。友。と。て。有。や

一 昨。氣。田。より。ぬ。お。ん。と。い。古。来。び。と。り。を。分。明
は。と。き。何。なる。人。な。れ。な。う。た。と。ハ。聖。人。ハ。日

の。光。透。徹。と。も。じ。天。竺。に。聖。人。の。教。教。ある。より。く
三。才。一。費。中。庸。精。微。の。密。に。悟。入。する。こと。あ。り。ハ
は。只。そ。廣。大。な。り。一。偏。の。位。と。大。光。明。輝。なり。と。も
ひ。定。天。竺。戒。の。風。俗。より。く。教。の。法。を。立。て。虎。生
を。教。化。せ。れ。る。と。そ。も。大。唐。も。戦。玉。の。後。ハ。氣
運。否。塞。より。く。聖。人。大。賢。も。た。ま。り。ん。と。こ。ろ
の。時。は。輝。時。長。あ。る。中。く。ひ。り。する。海。く。い。づ。の
始。く。大。唐。へ。く。ひ。り。する。く。聖。人。の。目。れ。光。年
の。時。は。輝。時。長。あ。る。中。く。ひ。り。する。海。く。い。づ。の
神。授。ハ。許。由。曾。摯。より。く。考。え。ん。と。そ。も。日。本

より大唐へ通路初よりなる時分。大唐に佛法ひかり
 るる中なれば。うをさうして日本にも流布さ
 るる元来釈迦達磨の法をあらわれし。ん根を
 元来のよりひて。あさきさ作をあられ。かきひ
 るる。うの。う言と立勸告懲惡のあられば。
 一版持清もくも。そ法祖なるよ。天竺戒の
 祖信よりく。さる教乃法なるによりて。法
 祖偏僻なるゆ。さうなり。さ上もむる。さ
 の若。其実を其の。さ若にあす。安一費中庸
 精微の。さ。さ。さ。人極の。さ。げ。なる

より大唐へ通路初よりなる時分。大唐に佛法ひかり
 るる中なれば。うをさうして日本にも流布さ
 るる元来釈迦達磨の法をあらわれし。ん根を
 元来のよりひて。あさきさ作をあられ。かきひ
 るる。うの。う言と立勸告懲惡のあられば。
 一版持清もくも。そ法祖なるよ。天竺戒の
 祖信よりく。さる教乃法なるによりて。法
 祖偏僻なるゆ。さうなり。さ上もむる。さ
 の若。其実を其の。さ若にあす。安一費中庸
 精微の。さ。さ。さ。人極の。さ。げ。なる

あるまじく人を書とわたりて大唐の教を乃
教の始とありてあるも聖人の日のひかりがく
きつていまだ夜と云ふぬやうその星の光
あかりた。それと聖人の日乃光あるやその教はハ
聖人のや乃ひかり輝くや考へるべし。大唐は
ち聖人のまことかたまひく。二方一書中庸精微の
教さうんよとあるれくるさその目れ光がこれ強ひ
くるは莊子のさうなりまて天竺の終は聖
人一人もあたはるべし。國藩より教の時はまてその
よの戒をたれは教を聖人の教と云生れ候る

ひ多。聖人中庸の法と述にながもねまて人極の
さうりとなるものあれはまて聖人偏僻の法と
述なりとあるととあるはよひて元來教は達
磨のん根ハ。勸告懲戒のためなすべきは。末
流は。いふとやう。あるとある。人乃んとはゆりある
ひ。淫走英連のさう。これある末代を流とく
ひは。其のあやまるとあるがう。元來聖人の身正純熟
せざるはよひてその教法粗粲迂濶なりゆなり。
釈迦も達磨もまてある聖人は。聖人イ
わいめこれさう。必中庸精微の密は。悟入して中

の位。むらさるべし。たし中。にむめされども
きんぎょ 許由。哲をもの。くにあつて。かく。世をまへに
いん 教の法を。たてめさるま。く。人。あ。世。ま。し。る
いん さぬ。戒。玉。に。生。あ。く。その。法。れ。ひ。あ。り。た。る。の。幸
ふ に。似。る。不。幸。に。く。い

一 倭。元。田。大。唐。と。天。竺。と。六。十。万。里。隔。る。い。と。承。作
いん ぞ。う。人。親。の。作。法。と。大。唐。乃。狂。老。の。作。法。と。あ。が
いん ひ。る。お。多。は。な。く。い。あ。り。く。狂。老。と。六。や。う。く
いん な。い。い。う。く

一 昨。為。回。し。を。と。佛。法。と。ま。て。條。判。す。る。わ。ん。首

の。凡。ま。の。こ。ご。に。て。い。と。は。さ。は。き。ま。る。い。う。く。い
いん 雲。乃。ち。う。い。作。法。と。む。に。な。づ。び。ん。の。く。さ。う。そ。う。を
いん 中。く。乃。の。坊。の。儒。乃。仏。乃。差。あ。と。并。ら。る。い。う。ハ
いん 如。ま。く。い。是。お。と。泥。す。て。い。ま。う。く。親。家。と。れ
いん 理。い。お。う。め。ら。る。へ。一。世。界。の。ま。あ。り。く。さ
いん 悔。く。わ。り。く。さ。も。が。来。る。ま。大。唐。祿。乃。の。う。ら。に。用
いん 釋。一。う。あ。ま。く。く。へ。十。万。世。界。と。れ。ひ。と。う。く。い
いん ち。あ。り。に。り。て。必。満。と。め。れ。べ。と。も。凡。俗。が。る。と
いん 一。と。も。その。ん。れ。く。わ。が。来。同。一。作。の。祿。乃。乃。に
いん して。唐。も。天。竺。も。あ。お。も。ま。い。と。わ。あ。り。と。あ。り

けり。此のうちに。も。取。ち。ぶ。る。な。り。か。あ。る。ゆ。へ。り。か。
 んの眼。わ。き。う。う。あ。る。哲。人。の。心。に。よ。り。て。あ。る。通。を
 す。く。何。ま。れ。ま。も。か。う。に。因。一。作。た。る。心。を。も。何。と
 評。判。し。た。り。也。一。て。聖。人。も。賢。人。も。聖。若。を。猶
 若。も。ん。の。見。性。な。る。な。れ。ば。れ。ん。と。う。親。索
 一。て。ま。位。と。言。う。た。り。莊。子。と。釈。迦。達。磨。と。こ。し
 ゐ。作。法。は。ち。が。ひ。た。ま。も。そ。の。見。性。な。る。は。ま。か。し
 位。な。る。に。よ。り。て。聖。若。と。云。ふ。と。云。ふ。名。は。ち。が。ひ。な。も
 見。性。な。る。の。ん。れ。位。は。い。と。う。と。云。ふ。天。竺。の。佛。如。來
 と。わ。め。妻。人。の。ん。乃。々。の。わ。大。唐。の。佛。若。と。ま。う

- 一 ち。中。の。下。の。ん。れ。位。は。り。難。波。の。あ。一。八。作。勢
 の。は。あ。さ。と。う。の。後。の。さ。あ。り。と。い。ふ。あ。る。一
 一 仲。之。曰。見。性。な。る。の。ん。乃。位。と。親。索。す。う。と。中。く
 凡。夫。の。及。う。さ。あ。り。い。な。う。た。り。子。同。と。う。と
 一 三。す。一。知。べ。く。い。や
 一 師。弟。曰。同。也。と。い。ふ。と。い。ふ。に。さ。あ。り。と。い。ふ。と。い。ふ。と
 一 一。と。い。ふ。見。や。と。う。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と
 一 一。と。い。ふ。わ。る。と。う。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と
 一 も。の。あ。り。ん。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と
 一 聖。賢。の。ん。乃。位。若。猶。若。凡。夫。れ。ん。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と

月の方物とて一終ぶとくなり。程若猶志凡
夫の心より聖賢れんとやむひるの言ふと
かせらたひまらふとやむひるにとあはれ
るゆゑに吾儒の心學以外の學問とて中へ
てまゝ知るやうなり。唯吾儒の心學とて
切確厚磨して大光明の位にまゐる。莊子釈迦
達磨などの心を親おするもの。白登よ白を
まゐるとくならず。莊子の學問とてまゐる
ふて。聖賢の心をわきまゐるもの。富士のやりと
りその巔を仰見るやとくならぬやうなり

釈の流とくじ人。適分聰明なり人あまふ。阿
まも。佛にも堂の仏とてまゐる。ひて
を仏法小宗のあはれ。儒者の極上のやうな
徳にまゐる。一とてまゐる。釈の大聖孔子ハハ
賢なりとて。吾ハ。仏教ハ。典聖とて。儒教ハ
外典俗業なりとて。吾ハ。儒教ハ。外典なりとて
て世をまゐる。人とならう。ゆゑとて。めづる。蛇
おらう。海よりうきまて。はるまじ。はるまじ
まゐる。世に人もあけ。儀備するもの。え。釈
迦達磨の心も。まゐる。理とて。まゐる。とあ

一 原教目それハサツにヒグところ。何門仏學なる
と。このめハ井のうられ。蟻大海と云ふに。つる。後
の。く。仏。より上ある。なり。と。慢。十。かな。に
。く。儒。の。仏。法。と。存。ふ。と。い。り。て。お。慢。の。教
ん。甚。一。それ。も。乃。理。の。さ。に。は。く。へ。い。ひ。う。へ。き。受
。怪。る。ま。に。う。の。く。げ。り。と。と。て。教。に。お。せ
て。儒。の。存。ふ。と。せ。ぐ。と。の。り。教。に。す。れ。る。
相。若。な。れ。ハ。や。う。に。さ。さ。か。ま。さ。う。お。う。そ。い。を。孫
む。ん。中。く。わ。る。は。ど。さ。に。あ。さ。ま。う。さ。つ。り。と。と
一。て。教。と。を。お。ひ。比。丘。と。す。る。り。誠。一。教。の

源人なる。一。さ。さ。さ。つ。り。と。の。ど。と。さ。さ。子
細。く。存。の。せ。あ。り。又。母。の。の。と。く。あ。れ。と。ま。
母。の。と。に。だ。ら。う。に。あ。る。す。大。帝。皇。上。帝。の。令
と。う。て。天。地。示。の。化。育。一。た。ま。さ。と。あ。り。と。る
。に。神。理。と。わ。さ。さ。入。り。て。教。の。仏。力。と。い。く。仏
。子。城。大。唐。つ。り。孔。子。と。化。力。と。せ。め。れ。と。ち
と。く。一。片。版。と。さ。つ。り。と。な。る。一。仏。の
う。ら。に。仏。像。と。決。る。細。工。の。た。く。と。な。る。人。だ。ま。さ
ハ。教。の。内。作。の。本。像。あり。と。い。は。さ。と。あ。り。あ。ん
と。と。へ。さ。り。なり。教。と。れ。仏。力。と。い。は。さ。の。人。と

神地示の神乃ちあれ人られ形まゝと儒乃ちとあり
 とむくはま先祖父母の乃ちとありてま令とありむ
 くなりま人にし諦するごとくお人人られ大始祖の
 皇上帝大父母の天神地示れ令とまそれうやまひ
 ま神乃ちと敬崇して交用すると孝なりと名づけ
 まま玉皇高皇と名づきまゝと儒乃ちと名づくこれと
 まあを儒者となこれとまゝと儒者となこれとま
 まてんにゆきより力におこあゝと儒者となやれと
 まり教するは乃ちの大まをさゝりあるれ者まゝと
 まんまゝもま父澤被れ權とにない梵網經の

孝順を乃ちの法と説められて孝りにんゝま
 わるれども孝はれ金体精微の密に懐入るま
 にんゝ中りの位にのかりめさるゝとあゝま
 まゝ儒乃ちとゆめされたるも必る信交用なる
 まゝ孝順を乃ちの法と説その父れ權とにあひ
 めされうあそとゝなり人ゝあうにそれ流とく
 むま代の以兵お慢れおんたくまゝくても親と
 まあうゝりもお体たさ親とわさまゝとらゝり
 まうせて儒乃ちとありやうハズレにあゝまゝ
 まゝいなるべ

作之曰。泉又作由。枉者。枉れども。堯舜。これとぞ
まじけたまひ。曾哲。原壤も。相あるれども。孔子
これとぞ。まじけたまひ。然るも。相あるとぞ。
仏法と。まじけたまひ。程子。
曰。老佛。皆是正路。之。蔡。蕪。聖門。之。蔽。塞。固。之。而。後。
可以入道。又曰。佛氏之言。比之。楊。墨。を。為。近。理。所。以。其。
害。を。甚。學。者。當。如。淫。色。義。色。以。遠。之。不。亦。則。後。
笑。入。於。其。中。矣。朱。子。曰。異。端。盡。無。寂。滅。之。教。其。高。
過。於。大。學。而。無。實。又。曰。至。於。老。佛。之。徒。出。則。近。
理。而。大。亂。真。又。曰。程。子。兄。弟。者。出。得。有。取。考。以。

續。又。千。載。不。傳。之。緒。得。有。所。校。以。存。其。二。家。似。
是。之。非。可。知。其。甚。く。まじけたまひ。程子。
これとぞ。まじけたまひ。程子。
一。原。曰。泉。又。作。由。曾。哲。原。壤。か。と。ハ。堯。舜。れ。
ふ。れ。日。克。己。の。う。さ。ふ。く。ぞ。れ。程。子。の。言。ひ。
ろ。め。く。世。の。さ。は。げ。と。あ。れ。上。惟。程。克。
金。作。聖。の。人。な。り。い。ふ。く。まじけたまひ。程子。
かり。程子。朱子。れ。時。か。ハ。儒。乃。々。く。て。佛。法。
盛。に。ま。り。未。流。の。比。丘。を。う。に。さ。ん。ん。
せ。ら。に。ま。り。せ。く。統。の。な。ま。し。と。ひ。と。り。

造^{つく}とち^し法^{はふ}をたて^て世^よとま^まと^と人^{ひと}と^と術^{じゆつ}
す^すむ^むに^にい^いく^くや^やじ^じと^とえ^えば^ばと^とか^かの^のど^どく
ち^ちり^りそ^そけ^けを^をさ^さて^て天^{てん}下^かは^は世^{せい}の^のま^まう^うい^いと^と解^{かい}ゆ^ゆき
ら^らめ^め免^{めん}され^れと^とり^りす^すか^から^ら孔^{こう}子^し。原^{げん}壤^{りやう}の^の脛^{しん}と^と叩^{たた}て^て
乃^{すなは}絨^{じやう}と^と素^そ沿^{えん}と^とま^まと^と祖^そ述^{しゆ}と^と攘^{じやう}退^{たい}め^めされ^れれ
む^む。按^{あん}所^{しよ}。ち^ちと^とた^たわ^わく^く佛^{ぶつ}氏^しの^の流^{りゆう}と^とら^らむ^むと^と乃^{すなは}評^{へう}
由^{よし}。曾^{そう}哲^{てつ}な^なと^との^のど^どく^く。ふ^ふん^んよ^よの^のこ^こね^ね者^{しや}と^とは^はり^り
て^て世^{せい}を^をな^なさ^さめ^めく^くび^びま^ま。程^{てい}子^し。朱^{しゆ}子^しも^もこ^この^のこ^こ。ち^ちり^り
ぞ^ぞけ^けひ^ひと^とさ^さめ^めと^とり^りま^ま。く^くい^い。君^{きん}子^しハ^ハ仁^に孝^{かう}の^の心^{しん}切^{せつ}
り^りと^とあ^あに^に天^{てん}下^かと^と汚^お濁^{たく}よ^よあ^あり^りと^と人^{ひと}偏^{へん}と^と禽^{きん}獸^{じゆ}の^の

域イキよりひきつれりやとあわれまけきてむれども
 一ヒトく攘ロウ斥セツめされり仏ブツ者の勝カチむしきこのむね
 ゐんりや儒ニウとぞねむしきあらふあはれに
 作サス之ノ曰イハレ釈シヤクするのあれ法ホウとたてめされりむね
 勅ツク告コク徳トク恵ヱのためあり。まじのたきを憐アハレむ人
 あれども愛アイれけさやどい世ヨとほどり人ヒトと後ノチに
 禽イン域イキよりむしきあらふあはれに
 いふ
 昨ソノ夜ヨ曰イハレ不フ審シンむしき易イ子シとぎにめされむ合カ
 点テン也ヤむしきあらふあはれに皮イ膚フのたきを

かくりて中し子日差之毫教垂謬以千里この聖謨の
さへん法のまやう毛羽だがいぬれども後修の逆
のあやまり千里のぢがひとあると云ふあり志
るぬに定候といく精粗生熟ぞ下ん法の
まやの差別とあふ糸されハ傷仏意あるの
うらなぐくマ一人ハ逆候の二はさるなり逆と
まハれまかり候ときハ聖賢君子佛菩薩なり
ま逆と候とハ一人にあり人さうくすめのまの
くん月のまきとくひてぞまれ教のくく成成
逆のくまかりま回修りの切つとりて人さう

くつさて聖のまきとれん月の光えぬんて
ま逆候のくまげ候のまを佛經よん念ふハ
ぬえ佛化力仏をくみつくまゝ無碍清浄の
位とまおとた傷むるま廣大のる作とこと
お教志のんれ候これなり切のく候うんの
は欲まかり佛の光えとまんと定ま性と定ま性
と定佛んと定仏性と定まはれら釈る逆魔
の心法の強的なり三大系の觀念十七百則の云案
皆この強的に強まらげ聖得清浄候ん念の中
佛ハ不思義の作りて毫髪の按拂とれざる前

の過未流此丘の眾なりと之を根中へ釈する。其類の
 ありてなり。あるるものなり。釈するのふ化を得。清
 淨の法なり。と之をあるるものなり。天を以てなり。と之
 を法と。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
 壞と。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
 たり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
 受。施。交。あり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
 孔子故。あり。なり。母失其為故。や。との。なり。ひて。終。り。
 交。と。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
 俟。と。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。

原壤の腫を。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
 中。の。後。へ。誘。極。を。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
 憲。章。し。て。釈。する。の。ふ。化。を得。清。淨。の。法。なり。と。之。を。ある。る。もの。なり。
 け。を。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
 門。を。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
 仁。氏。の。一。端。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。

ものあきく。飢渴の人。飲食を戒むにことあり。
にきりゆへ。未流の比丘。嬌欲。こころをこころに。
男女和合の。どかりあはるや。大便。及。せり。あして。
無陰陽の地。不和合の。あま。執著の。形。嬌。なり。
例の家。れる。つ。こと。と。巧。り。以。て。同。く。色。欲。
の。う。り。と。あ。さ。あ。ま。と。女。の。形。あ。似。せ。く。喫。喝。
食。を。と。ま。く。和。尚。上人。の。書。と。あ。で。り。し。と。ん。淺。
ま。い。と。も。中。く。云。は。る。ひ。や。え。来。不。嬌。戒。の。は。天。
理。よ。と。む。さ。だ。る。は。う。の。く。未。流。の。の。く。畜。
生。に。も。む。り。と。る。作。法。に。かり。や。文。殊。の。始。て。いた。と。

用。開。め。され。つ。る。を。佛。若。の。云。かり。つ。る。を。され。も。
文。殊。す。て。に。菩。薩。の。果。を。あ。る。人。を。れ。む。く。淺。
る。き。欲。ん。い。わ。る。ま。い。き。る。か。め。や。例。の家。乃。
造。え。か。く。一。夫婦。の。別。は。本。智。に。属。し。る。
もの。かり。あ。る。と。禮。かり。と。つ。る。儒。及。其。案。内。
かり。あ。る。と。つ。る。飲。酒。戒。の。あ。て。あ。た。さ。あ。る。か。く。
一。高。修。戒。を。修。たり。と。つ。る。可。や。あ。れ。と。修。は。
天。法。の。を。傳。へ。る。高。実。無。妄。の。神。理。を。さ。百。り。
の。振。お。に。て。自。古。皆。有。死。民。生。修。不。立。の。な。り。
や。く。廣。大。親。切。至。懇。なり。天。性。よ。不。妄。修。一。色。と。あ。

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written on aged, yellowed paper and is mostly illegible due to fading and the style of the handwriting. The script appears to be from the 17th or 18th century. The text is arranged in approximately 12 lines across the right page.

